1803 GV81

レンジフード取付説明書

取扱説明書・取付説明書は必ずご使用になるお客様にお渡しください。

安全上のご注意

● 取り付けの前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しく取り付けをおこなってください。
● ここに示した注意事項は、製品を安全に正しく取り付け、あなたや他の人々への危害や損害を未然に防止するためのものです。また注意事項は、危害や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、誤った取り扱いをすると生じることが想定される内容を「警告」「注意」の2つに区分しています。
いずれも安全に関する重要な内容ですので、必ず守ってください。

⚠警告：人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容。

⚠注意：人が傷害を負う可能性及び物的損害のみの発生が想定される内容。

お守りいただく内容の種類を次の絵表示で区分し、説明しています。

絵表示の例

⃠記号は行為を禁止する内容を告げるものです。図の中や近傍に具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。

●記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。図の中に具体的な指示内容（左図の場合は電源プラグをコンセントから抜いてください）が描かれています。

⚠警告

分解・修理改造禁止 ● **修理技術者以外の人は、絶対に分解したり修理・改造をしないこと**
発火・感電したり、異常動作してけがをするおそれがあります

使用禁止 ● **交流100V以外では使用しないこと**
火災・感電の原因になります

アースを取り付ける ● **アースを確実に取り付けること**
故障や漏電のときに感電するおそれがあります
アースの取り付けは販売店にご相談ください

取付注意 ● **配線工事は電気設備技術基準や内線規程に従って法的有資格者が工事をおこなうこと**
誤った配線工事は感電や火災の原因になります

取付注意 ● **自然排気型のストーブを使用するときは、空気の取入口（給気口）により十分給気される配慮をすること**
排気ガスが室内に逆流し、一酸化炭素中毒を起こすおそれがあります

取付注意 ● **メタルラス張り、ワイヤラス張り、または金属板張りの木造の造営物に金属製ダクトが貫通する場合、金属製ダクトとメタルラス、ワイヤラス、金属板とが電気的に接触しないよう取り付けること**
漏電した場合、発火したり感電するおそれがあります

取付注意 ● **排気工事をされる場合は建築基準法（同施行令）および消防法などの関連法規に従って法的有資格者が工事をおこなうこと**
火災などの原因になります

取付注意 ● **本体とダクトは、可燃物との間を10cm以上離すか、不燃材料を使用して可燃物を覆うこと**
火災などの原因になります
詳しくは、所轄の消防署に問い合わせてください

取付注意 ● **レンジフードは、薄板の金属部（壁内ラス網など）と接触しないよう取り付けること**
漏電した場合、発火するおそれがあります

埋込禁止 ● **レンジフードの壁への埋め込みはしないこと**
漏電した場合、発火するおそれがあります

⚠注意

接触禁止 ● **運転中は指や物を絶対に入れないこと**
けがをするおそれがあります

取付注意 ● **ファンや部品の取り付けは確実におこなうこと**
落下によりけがをするおそれがあります

取付注意 ● **レンジフードの取り付けは十分強度のあるところを選んで確実におこなうこと**
落下によりけがをするおそれがあります

手袋をする ● **取り扱いの際は、必ず厚手の手袋をすること**
鋼板の切り口や角でけがをするおそれがあります

取付禁止 ● **周囲温度が40℃以上になるところには取り付けないこと**
火災・故障の原因になります

使用禁止 ● **浴室など湿気の多い場所では絶対に使わないこと（浴室用換気扇をお使いください）**
感電および故障の原因になります

取り付け上のお願い

● **下記は「建設工事」に区分され、関連する法令、規定に従って法的有資格者がおこなう必要があります。**
- **大工工事（設置のための下地工事等）**
- **配線工事（コンセントの設置、コンセント・コネクター利用以外の配線接続等）**
- **管工事（ダクト配管及びレンジフードからのダクト接続等）**

流通業者（販売店）を通して組立・設置する場合は、「建設工事」とそれ以外の「組立・設置」を区別しておこなってください。

● 調理機器の幅はレンジフードの幅以内のものをご使用ください。
調理機器はレンジフードの前面より手前にはみ出して設置しないでください。排気効率が低下します。

● 電源は専用コンセントおよびブレーカーを設けてください。
火災・故障の原因になります。

● 屋外壁面の排気出口に取り付けるベントキャップまたはパイプフードの通気抵抗は400m³/h時50Pa以下のものをご使用ください。
防虫網付きのものは目詰まりして排気性能が低下する場合がありますので使用しないでください。

● ダクトの不燃処理について
- ダクトを50mm以上の不燃材料、または20mm以上の国土交通大臣不燃認定品の不燃材料で被覆してください。
- 施工要領は、各メーカーの「標準施工要領技術指導書」・「検査要領書」に従ってください。

● 製品は調理機器の真上に取り付けてください。
なお、製品取付高さは、製品の下端が調理機器の真上80cm以上になるようにしてください。
（図：調理機器の真上! 80cm以上）

● 寒い地域ではダクトが結露し本体内に結露水が流れる場合がありますので断熱材を巻くなどの対応をしてください。

● 製品仕様を改造してのご使用は絶対におやめください。

● 非常に長いダクトや細いダクト、あるいは極端に屈曲したダクトは排気効果をいちじるしく低下させたり、騒音が大きくなりますので使用しないでください。

● レンジフード取付面の補強部に、取付用ねじが確実に届くことを確認してください。
本体の取付用ねじは45mmの長さのものが同梱されておりますが、壁下地に石膏ボード等が貼られている場合は、石膏ボード等の厚さを確認し、取付用ねじが確実に補強部に届くことを確認してください。
また、レンジフード本体取付面には必ず不燃材を使用してください。

● レンジフード下部には、湯沸器を絶対に取り付けないでください。
また、横方向50cm以上離して取り付けてください。
湯沸器の真上は高熱になるため故障の原因になります。
（図：50cm以上）

● 建物が密閉されている場合は必ず、約400㎠程度の空気取入口を設けてください。

● 部屋の中央で料理される場合は、油煙が捕集しきれませんので、お台所の全体換気のために、他の換気扇と併用していただければ、よりすぐれた換気ができます。

取り付け前の調査と準備

⚠警告

分解・修理改造禁止 ● **修理技術者以外の人は、絶対に分解したり修理・改造をしないこと**
発火・感電したり、異常動作してけがをするおそれがあります

取付注意 ● **排気工事をされる場合は建築基準法（同施行令）および消防法などの関連法規に従って法的有資格者が工事をおこなうこと**
火災などの原因になります

取付注意 ● **レンジフードは、薄板の金属部（壁内ラス網など）と接触しないよう取り付けること**
漏電した場合、発火するおそれがあります

埋込禁止 ● **レンジフードの壁への埋め込みはしないこと**
漏電した場合、発火するおそれがあります

取付注意 ● **本体とダクトは、可燃物との間を10cm以上離すか、不燃材料を使用して可燃物を覆うこと**
火災などの原因になります
詳しくは、所轄の消防署に問い合わせてください

⚠注意

取付注意 ● **レンジフードの取り付けは十分強度のあるところを選んで確実におこなうこと**
落下により、けがをするおそれがあります
壁板が薄く弱いと振動音を発生するおそれがあります

手袋をする ● **取り扱いの際は、必ず厚手の手袋をすること**
鋼板の切り口や角でけがをするおそれがあります

取付禁止 ● **周囲温度が40℃以上になるところには取り付けないこと**
火災・故障の原因になります

1. **取付面の強度確認**
……………………………製品を支える強さが必要です。

	幕板なし	幕板あり
600幅	製品質量 12.0kg	製品質量 13.5kg
750幅	製品質量 12.5kg	製品質量 14.5kg
900幅	製品質量 13.0kg	製品質量 15.5kg

※幕板ありの場合の製品質量は製品総高さ600mmの場合

■板張りの場合（取付面は必ず不燃処理をおこなってください）
● 板厚が20mm以下の場合には壁に補強板を埋め込み補強板にレンジフードを取り付けてください。
● 板厚が20mm以上の場合は補強板の必要はありません。

■コンクリート、タイル壁の場合
● あらかじめ補強板を壁に埋め込んでおくか、カールプラグ等を使用し固定してください。

■土壁の場合
● 柱などに固定した補強板をあらかじめ壁に埋め込んでください。

2. **別売部品の準備**
排気工事に応じた別売部品の準備が事前に必要です。

3. **標準取付寸法**
本製品の標準取付寸法は調理機器の上面から製品の下端まで80cmです。
※火災予防条例では、グリスフィルターの下端が調理機器の真上80cm以上必要となっています。
（図：レンジフード、調理機器、80cm以上）

4. **電源コンセント・ブレーカー**
電源コンセント・ブレーカーは専用のものを設置してください。（交流・単相 100V）
コンセントは、JIS C 8303 2極差込接続器（15A125V）をご使用ください。

お願い **必ずアース（D種接地工事）をしてください。レンジフードが誤作動することがあります。**

各部のなまえ

製品寸法図

付属品 ※は付属品でない場合もあります

	品名	寸法・数量	用途
	座付ねじ	φ5.1×45 4本	本体の取り付けに使います。
	排気口	1個	本体とダクトの接続に使います。逆風防止シャッター付です。
	ソフトテープ	1本	排気口とダクトのすきまをふさぐのに使います。
※	固定ばね	2個	幕板の取り付けに使います。
※	取付ねじ	M4×10 4本	幕板の取り付けに使います。
※	幕板固定金具	2個	幕板の取り付けに使います。
※	丸木ねじ	φ4.1×16 4本	幕板の取り付けに使います。
※	幕板	1個	本体に取り付けます。

取り付けかた

1.付属品の確認

⚠注意

手袋をする ● **取り扱いの際は、必ず厚手の手袋をすること**
鋼板の切り口や角でけがをするおそれがあります

梱包箱から付属品を取り出し、右上項の付属品一覧により不足がないか確認します。

お願い
● **取り付け作業の際はキズ・破損のないように十分注意してください。**
● **保護用のクッション材と固定テープはキズ・破損防止のため取付作業が完了するまではずさないでください。**
● **床で作業する場合、本体及び床にキズを付けないため、必ずシートを敷いた上で作業をおこなってください。**

2.排気方向の決定

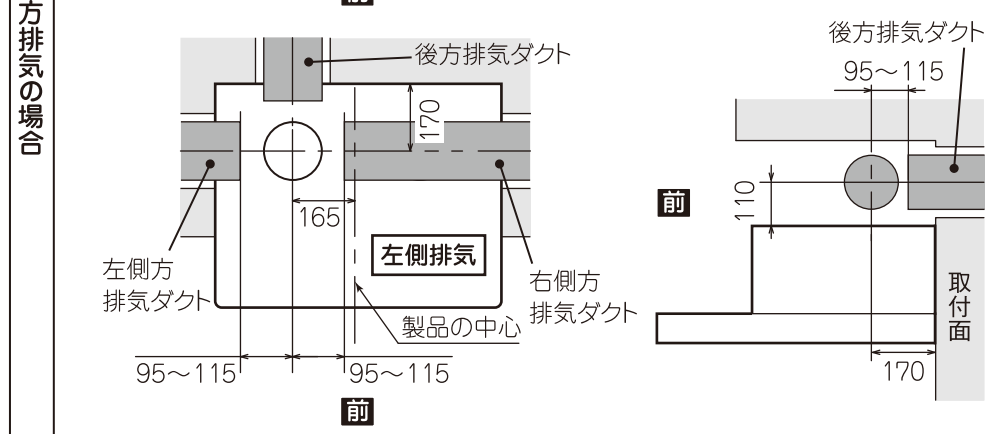
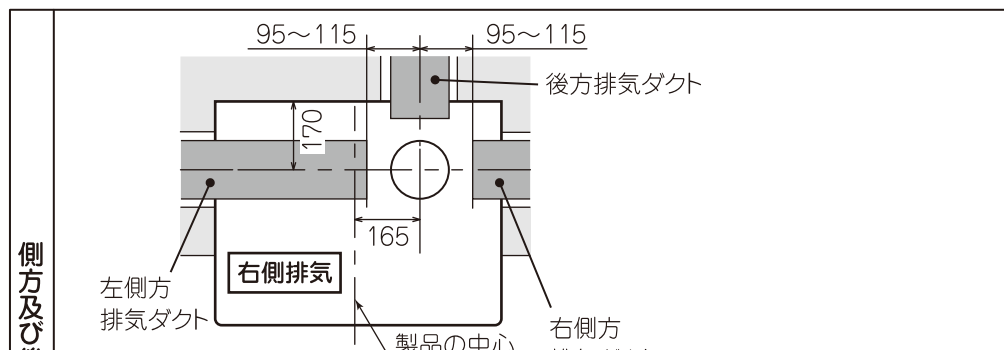
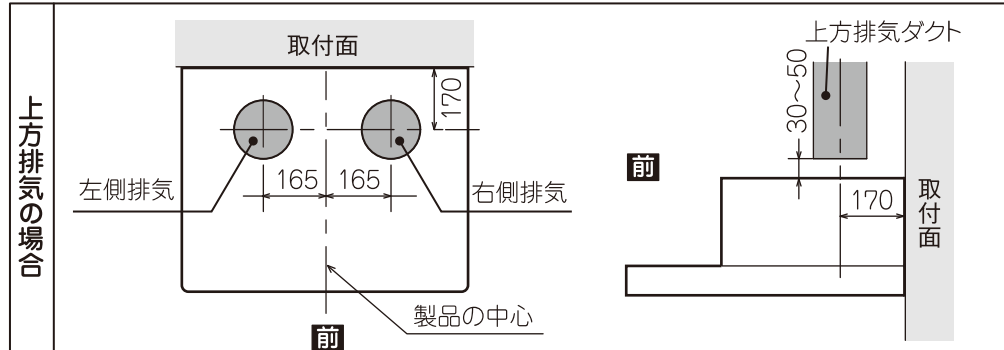
⚠警告

取付注意 ● **メタルラス張り、ワイヤラス張り、または金属板張りの木造の造営物に金属製ダクトが貫通する場合、金属製ダクトとメタルラス、ワイヤラス、金属板とが電気的に接触しないよう取り付けること**
漏電した場合、発火したり感電するおそれがあります

取付注意 ● **排気工事をされる場合は建築基準法（同施行令）および消防法などの関連法規に従って法的有資格者が工事をおこなうこと**
火災などの原因になります

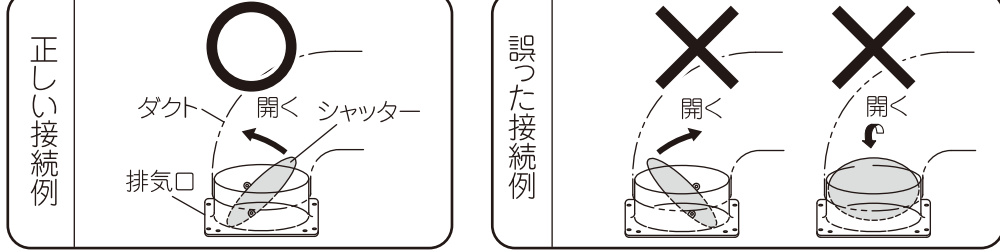
取付注意 ● **本体とダクトは、可燃物との間を10cm以上離すか、不燃材料を使用して可燃物を覆うこと**
火災などの原因になります
詳しくは、所轄の消防署に問い合わせてください

① 製品寸法図を参照し、事前に管工事業者（法的有資格者）へ壁穴の開口を依頼してください。また、コンセントの位置を確認してください。

② φ150のステンレスダクト、またはスパイラルダクトを図のようにレンジフードの上面に突き出すようにセットして、周囲を仕上げます。
（コンクリート、タイル、土壁の場合）

3.排気用部品の準備

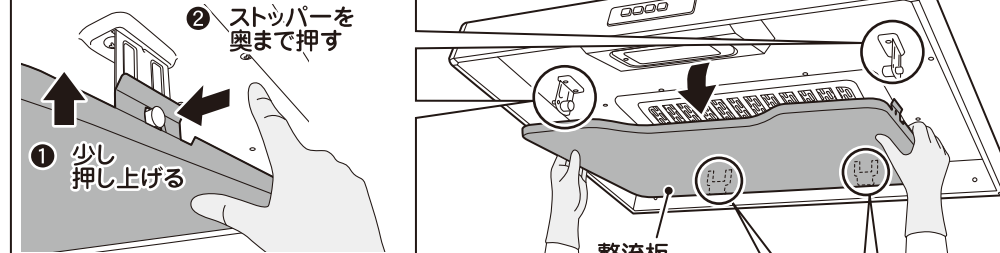
■上方排気の場合
① ソフトテープを排気口に貼り付けます。
② 排気口は本体上面の排気口引掛金具に差し込み、取付ねじ2本で取り付けます。
（取付ねじはあらかじめ本体の排気口取付部に取り付けてあります）

■側方および後方排気の場合
（別売部品のL形ダクトを使用する場合）
① ソフトテープを排気口に貼り付けます。
② L形ダクトに排気口を取り付けます。
排気口はL形ダクトに付属の取付ねじ4本で取り付けます。
（本体への取り付けは後でおこないます）

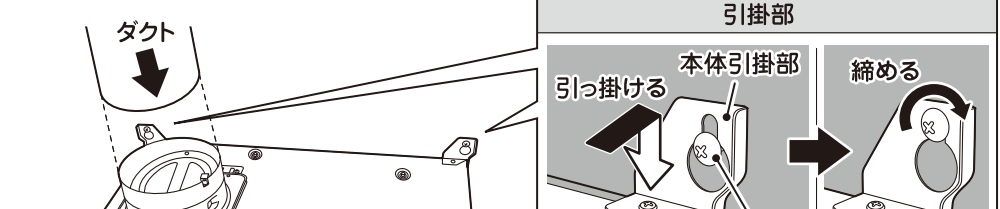
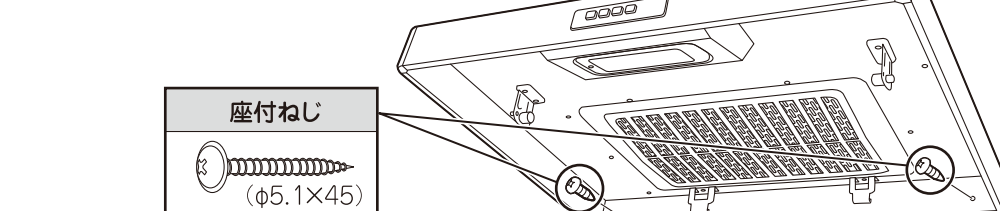
お願い
L形ダクトを使用しないで、排気口に直接ダクトを接続して側方・後方排気する場合は、シャッターの開く向きに注意して排気口を取り付けてください。
下図の「誤った接続例」の場合、排気不良や異常音の原因になります。

4.本体の取り付け

1 整流板をはずします。
① 整流板の左右を両手で支え、少し押し上げます。
② 左右のストッパーを押し込みながらゆっくりと20cm程度おろした状態で、整流板の後ろを持ち上げ、整流板吊金具からはずして手前へ取りはずします。

お願い **必ず左右同時にはずしてください。**
整流板吊金具の変形の原因になります。

（図：❶少し押し上げる　❷ストッパーを奥まで押す　整流板）

2 製品寸法図を参考にしてだるま穴用座付ねじ2本をねじ込みます。
だるま穴用位置（左右各1ケ所）に座付ねじ（φ5.1×4.5）を壁面とのすきま5mmまで締め付けます。
（図：整流板吊金具　整流板引掛部　整流板）

3 本体を取り付けます。
① **2** で取り付けただるま穴用座付ねじに本体を引っ掛けたあと、しっかり締め付けます。

お願い **上方排気の場合は、ダクトに排気口を差し込みながらフードを取り付けてください。**

② 本体内部からも座付ねじ（左右各1ケ所）をしっかり締め付けて固定します。
（図：座付ねじ（φ5.1×45））

5.ダクトと排気用部品の接続

お願い
ドリリングタッピンねじなどで排気口を固定する場合は、シャッターにねじがあたらないように図のドリリングタッピンねじ使用範囲内に固定してください。
（図：シャッター軸　45mm以上　ドリリングタッピンねじ　(28mm)　15mm以上　ドリリングタッピンねじ使用範囲（25mm以下のねじをご使用ください）　排気口　ダクト）

■上方排気の場合
風漏れ防止のテーピング（アルミテープ）をおこないます。
（図：アルミテープ　ダクト）

排気口設置面の漏風確認のお願い
排気口とダクトを接続する際に、無理にダクトにレンジフードの排気口を接続しようとすると、排気口と排気口の設置面（本体天面等）が変形し、排気漏れが発生してしまう場合があります。
排気漏れ確認の為に、ダクトと接続後は試運転（強運転）を行ってください。
漏風する場合は、排気口と設置面の周りをアルミテープ等（現地手配）で漏風防止処置をおこなってください。
（図：ダクト　設置面　排気口　アルミテープ等で排気口の四方をテープ貼り）

■側方および後方排気の場合
（別売部品のL形ダクトを使用する場合）
① L形ダクトを本体上部の排気口引掛け金具に差し込みながら、排気口をダクトに挿入し、取付ねじ2本で取り付けます。
（取付ねじはあらかじめ本体の排気口取付部に取り付けてあります）
② 風漏れ防止のテーピング（アルミテープ）をおこないます。
（図：L形ダクト　排気口　ダクト　アルミテープ　取付ねじ　排気口引掛金具）

6.電気配線

⚠警告

分解・修理・改造禁止 ● **修理技術者以外の人は、絶対に分解したり修理・改造をしないこと**
発火・感電したり、異常動作してけがをするおそれがあります

アースを取り付ける ● **アースを確実に取り付けること**
故障や漏電のときに感電するおそれがあります
アースの取り付けは販売店にご相談ください

使用禁止 ● **交流100V以外では使用しないこと**
火災・感電の原因になります

取付注意 ● **配線工事は電気設備技術基準や内線規程に従って法的有資格者が工事をおこなうこと**
誤った配線工事は感電や火災の原因になります

① アース（D種接地工事）を取ります。
※アース線は取付作業者側にて手配してください。
② 分電盤のブレーカーを「切」にし、電源プラグをコンセントに差し込みます。

お願い
● **電源は専用のコンセント（2極差込接続器 15A、125V）およびブレーカーを設けてください。**
● **コンセントは、電源コードの長さを考慮して設置してください。**

7.幕板の取り付け

※ **幕板が付属品でない場合は、幕板に同封されている取付説明書に基づき取り付けてください。**

お願い
● **幕板固定金具を壁面に取り付ける際、壁面側に石膏ボード等が貼ってある場合には木ねじが届かない場合があります。その際には設置条件にあったねじを現地手配し、幕板固定金具が壁面に確実に取り付くようにしてください。**
● **別売品の横幕板を取り付ける場合、幕板固定金具は必要ありません。**

1 幕板固定金具を取り付けます。
幕板を取り付ける前に、付属品の幕板固定金具を付属品の木ねじ2本で取り付けます。
幕板固定金具は両壁面に取り付けます。
（図：幕板固定金具　丸木ねじ φ4.1×16　375　65　50　10　10　40　60）

2 幕板に固定ばねを取り付けます。
幕板に固定ばねを差し込み（左右各1ケ所）、取付ねじを締め付けて固定します。
（図：幕板　固定ばね　取付ねじ（M4×10））

3 幕板を取り付けます。
① 幕板取付金具のねじ（左右各1ケ所）をゆるめ、幕板を前から差し込み、固定ばねを幕板固定金具の奥まで差し込みます。
② 幕板の取付位置を決め、幕板取付金具のねじを締め付けて固定します。

8.組み立て

整流板を取り付けます。
① 整流板の引掛部を整流板吊金具に引っ掛けます。
② 整流板をゆっくり持ち上げてパチンと音がするまで押し込んでください。
③ 整流板を軽く上下に動かしてみて確実に取り付けられたことを確認してください。

9.試運転

■分電盤のブレーカーを「入」にし、スイッチを操作して運転状態を確認してください。
スイッチの操作と運転状態については取扱説明書をご覧ください。
■運転時、各速調の排気が正しく行われていることを確認してください。
■異常な騒音、振動がないことを確認してください。
■屋外の排気出口から排気されていることを確認してください。
■取り付けまたは各種工事にて発生した不具合で修理を依頼されますと全て有料となりますのでご注意ください。

10.お客様への説明

■取扱説明書によって機器の取り扱いを説明してください。
■取扱説明書と共に、この取付説明書を必ずお客様にお渡しください。

製造元：富士工業株式会社
〒252-0206 相模原市中央区淵野辺2丁目1番9号
TEL 042（768）3754　（営業部）